

研究者のアクセス手法II

社会科学系図書館と研究者のニーズ

斎藤 修
(一橋大学)

於筑波大学, 9 vii 07

1

はじめに

- 学生・院生、教員のニーズ
 - 自明だろうか？
 - 教育と研究
 - その区分は有用か？
 - 社会科学諸分野
 - その多様性
 - 図書館員に役立つ分類学
- 個人的経験にもとづく「社会科学系図書館に期待するもの」

2

ニーズのタイプ：教育と研究

- 通常のカテゴリー

学部

大学院 - 専門職養成

- 研究者養成

- 教育の二つの目的：より根源的なカテゴリー

職業教育

→ 既知の情報を求める利用者＝知識志向型

知的能力涵養教育

→ 発見を求める利用者＝(広義の)研究志向型

3

教育の二つの目的

学部 修士課程 博士課程

職業教育



知的能力



涵養

4

いくつかの誤解、いくつかの問題

- 学部教育は既知の学問を教える課程
- 研究は、研究者養成課程で教えられるもの
- 教養とは、専門教育と専門的研究の外に位置するもの
- 図書館にとって専門職大学院とは？
- 図書館の検索機能は何のため？
- 専門家(研究者)は、自分が何を探しているかを知っているか？

5

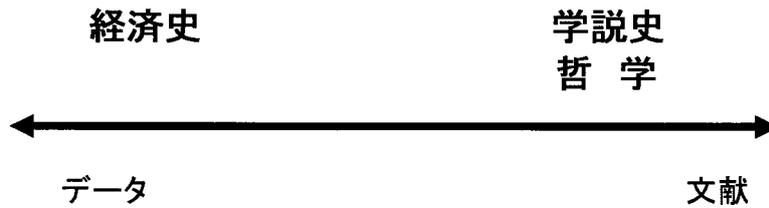
社会科学:その分類学

尺度1:

- 本重視 vs 雑誌重視
利用するのが本か雑誌かだけではなく、業績としても本が重視されるか雑誌論文が重視されるかも異なる
- e-ジャーナル志向、電子化
- 図書館「中ぬき」化の危惧

6

例：経済史と学説史・哲学



11

私の図書館体験

- 慶応義塾大学図書館
- University of Cambridge
 - University Library
 - College/Department/Institute libraries
 - (History of Population and Social Structure)
- 一橋大学
 - (概要を参照)

12

個人的評価項目

- 蔵書規模
- 開架と閉架
- 本と雑誌とデータの資料
- 一般書架と特殊資料
- 中央図書館(UL)とサブジェクト・ライブラリー

13

よい図書館とは(1)

- 図書館のストックを活かす
- ストックが豊富で、その増加率もさることながら、
利用率の高さを誇る図書館
それが研究者からみて「もっともよい図書館」

14

よい図書館とは(2)

- 図書館に来てもらう工夫

- たとえば
 - 蔵書のバランス
 - 隣接領域の充実
 - ULへの集中
 - ブラウジングと開架化

15

期待すること(1)

- 何か新しい発見があること

- 研究者にとって図書館は「教えてもらえるところ」
- 研究者は「自分が何を探しているか知っている」わけではない

16

期待すること(2)

- 所在・書誌情報
- 資料の氏素性
 - 一味違う情報
 - 意外な文献・データに意外な情報

17

若干の実例(1)

- 『明治前期日本経済統計解題書誌』
細谷新治著
富国強兵編, 上の1, 上の2, 上の3, 下, 補遺
一橋大学日本経済統計文献センター, 1974-1980年
(現社会科学統計情報研究センター)
- 内容
明治17(1884)年までに刊行された統計資料の所在調査
個々の統計資料の内容細目(表頭と表側)
解題

18

若干の実例(2)

- 「修学旅行」報告書
- 解説

東京高等商業学校時代の「修学旅行」制度に基づく「修学旅行」報告書。この制度は、明治21年度から実施されたものであり、『東京高等商業学校一覧』によれば、「本校学生の内学生の成績優秀なるもの若干名」を選び旅費を給付して、「夏期休業中地方商工業の状況を視察せしめ」、報告書の提出を義務づけたものである。その中には、今日でも研究者に利用されている貴重な報告書も含まれている。

19

「修学旅行」報告書蔵書リスト

- Azn- 1 肥後舊藩時代ニ於ケル米穀取引ニ関スル調査 附参考資料
緒方清 報告
写本 一一〇、参考資料九冊
- Azn- 2 山形及熊本ニ於ケル米穀倉庫調査報告(大正五年)
緒方清 報告
写本
- Azn- 3 阪神海運事情調査報告書(大正六年)
井藤半彌 報告
写本
- Azn- 4 近海市場ニ於ケル運賃ノ変動
村松恒一郎 報告
写本 四九頁
- Azn- 5 九州炭坑ニ於ケル労働状態視察報告
曾野近一 報告
写本 二冊
- Azn- 6 青島ノ經濟的價値(大正五年)
小野田友吉 報告
写本 八八頁
- Azn- 7 大連港ノ經營(大正五年)
桶谷友助 報告
写本 一四二頁、並表

20

若干の実例(3)

- メンガー文庫
- 解説

オーストリア学派の創始者の一人として知られる経済学者カール・メンガー(1840-1921)が蒐集した約20,000冊からなる世界的コレクション。メンガー文庫は、全体として、以下の三つの特色を持っている。第一は経済学・社会思想の古典の充実度、第二はヨーロッパの十数カ国語にわたる周辺諸学への豊富な広がり、第三にはメンガー自身による数多くの書き入れ、自筆ノート、書簡などのドキュメントやマニュスクリプトが含まれている点である。

21

続

- 第二にこの文庫では法学、歴史学、社会学、民族誌、旅行記、統計、雑誌類など実に多方面にわたる収書が行われている。これはメンガーの生涯における学問的思索の広がりとはビブリオフィリズムとの結果であるが、このため経済学に限らない多くの専門分野からのこの文庫の利用が可能となっている。またこれは、経済学のパラダイム変換を図って経済人類学への道を開いたとも評される『国民経済学原理』改訂稿(没後出版)にいたるメンガー経済学の到達点、全体像をとらえるための手がかりともなる。

22

メンガー文庫について(センター長就任挨拶文)

- ただ、今回書庫を案内していただいたときにメンガー文庫の書架を一通りみて、おやと思いました。意外と経済理論以外の分野の書籍が多いのです...メンガー文庫は、メンガー研究者とは違った視点から研究している歴史家にも役立つ文献が少なからずあるのではないかと。そう思ったのです。

23

メンガー文庫について(続)

- 18世紀英国の国民所得資料については、データはほとんどありません。19世紀にはその名も『国民所得』というタイトルの、1867年についての推計結果がDudley Baxterによって公刊されていますが、それより前ですと、1800年ころのPatrick Colquhounの書物と、1759年についてのJoseph Massieの資料、そして1688年にかんするGregory Kingの統計表しかありません...メンガー文庫にはすべてが揃っているのです。

24

メンガー文庫について(続)

- 同じころの、ミクロ・レベルの経済分析を志す歴史家には、異なった種類の資料が必要となります。統計屋が個票データと呼ぶ、個人や家計を単位とした、まとまった数の数量情報からなる資料群ですが、このようなデータも歴史では稀です。この稀な資料のなかで出色のものといえば、Sir Frederic Morton Eden, *The State of the Poor* (1797)でしょう。イングランド各地から134事例が集められて、それぞれが600ページになる3冊本に収められています。消費や生活水準の研究には格好の資料ですが、それ以外でも、たとえば労働の分析にも使えるデータです... この本をOPACで検索したところ、やはりありました。

25

The State of the Poor の書誌

- **The state of the poor, or, An history of the labouring classes in England, from the conquest to the present period in which are particularly considered, their domestic economy ... : together with parochial reports relative to the administration of work-houses ... : with a large appendix ... / by Sir Frederic Morton Eden, Bart**
- 出版者 London : Printed by J. Davis, for B. & J. White [and 6 others] 出版年 1797 形態 3 v. ; 27 cm 他の書名 VT: An history of the labouring classes in England from the conquest to the present period

26

若干の実例(4)

- 覆刻版の出版情報
- The listing of inhabitants of Cardington, 1782
- D.Baker, *The inhabitants of Cardington in 1782*, The Publications of the Bedfordshire Historical Record Society, vol.52, published by The Society, 1973.

27

期待すること(3)

- 主題専門性
- サブジェクト・ライブラリアン
 - 蔵書構築
 - 相談相手
 - 何かサジェストしてくれるライブラリアン

28

結論

- 既知の情報を検索するだけでなく、「発見」の手助けをしてくれる図書館へ
- そのためには
 - 研究者の眼
 - ひろがりをもった専門性を有するライブラリアンがいて欲しい